

E. エルガーのオラトリオ作品研究 (続)
—— 《命の光 The Light of Life (キリストの光 Lux Christi)》
作品 29 (付・歌詞対訳) ——

秋岡 陽
Yo AKIOKA

エドワード・エルガー Edward William Elgar (1857-1934) には、一般に「三部作」とよばれる大規模なオラトリオ作品がある。《ゲロンティアスの夢 The Dream of Gerontius》《使徒たち The Apostles》《神の国 The Kingdom》の3作品である。この「三部作」について、本稿筆者は、すでに別稿「E. エルガーのオラトリオ作品研究:《ゲロンティアスの夢》《使徒たち》《神の国》(付・歌詞対訳)」で論じた¹。

この「三部作」に関する作品研究は、東京交響楽団のエルガー・オラトリオ連続演奏会と同時期にすすめられたもので、同連続演奏会では本稿筆者による歌詞対訳が使用された。ところが上記論文の発表後、2010年10月30日の東京交響楽団の演奏会で、エルガーの初期のオラトリオ《命の光 The Light of Life》が取り上げられることになった²。

《命の光》は「三部作」に先んじて作曲された作品で、三部作に比べると演奏頻度は高くなく、日本では演奏されたことがない。《命の光》は「三部作」のもとになるものを胚胎する初期の作品として重要である。しかし本邦初演のため、日本語の歌詞対訳も発表されたものが存在せず、作品理解もすすんでいなかった。そこで今回もまた演奏会準備の一環として歌詞研究をおこない、演奏会用に歌詞対訳を仕上げることになった。本稿はその作業を通して書かれたものである。

作曲の着想

エルガーが聖書の物語に題材を得た音楽作品を書きたいと思うようになったのは少年期にま

¹ 「E. エルガーのオラトリオ作品研究:《ゲロンティアスの夢》《使徒たち》《神の国》(付・歌詞対訳)」『フェリス女学院大学音楽学部紀要』第10号 [2010年3月]、3-65ページ。

² 東京交響楽団「大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ第106回演奏会《生命の光》」(2010年10月30日)。

でさかのぼる。楽想や動機が思い浮かぶとそれを記録しておき、そうしたメモの積み重ねが長い時間をかけて熟成され、作品の一部になっていくというのが彼の創作のプロセスだった。そうしたことを考えると、《命の光》(1896年初演)の音楽の着想は彼の青年時代にまでさかのぼるともいえる。また《命の光》を書きながら、その後の《使徒たち》(1903年初演)や《神の国》(1906年初演)の創作がすでに「助走」開始していたともいえる。実際、《命の光》のなかで使われた動機が、ライトモチーフのようにして《使徒たち》でも聞かれることになる。

《命の光》は1895年にスリー・クワイヤズ音楽祭 Three Choirs Festival³から委嘱され、1896年にウスターで初演された。この音楽祭とエルガーの関係は深い。少年時代からその演奏を聞いていただけでなく、成人してからはヴァイオリン奏者として演奏に参加。作曲家としては1890年にはじめて管弦楽曲の作曲を依頼され、その初演時にはエルガー自身が指揮台に立っている。同音楽祭から彼が次に委嘱されたのがオラトリオ《命の光》である。

《命の光》はエルガーが40歳になる直前に書かれたもので、彼の名前が有名になる前の作品である。エルガーの名前が一躍有名になるのは、1899年初演の《エニグマ変奏曲》の大成功以降のことで、それまで彼はむしろ地方音楽家のひとりにすぎなかった。しかし今回の研究と演奏を通して確認できたのは、1896年の《命の光》の段階で、続く1900年代の《使徒たち》や《神の国》の作曲スタイルがすでに確立されていたことである。《命の光》は、のちの「三部作」の基礎になるものを確立した初期の作品として重要であることが今回あらためて確認された。

ケーペル=キュアによる歌詞の編集

1896年の音楽祭のための新作オラトリオの歌詞の執筆を依頼されたのは、英国国教会の牧師エドワード・ケーペル=キュア Edward Capel-Cure (1860-1949) だった。依頼を受けたケーペル=キュアは、次の3つの物語を台本の候補としてあげてきた⁴：

- (1)目の見えなくなった男が癒された物語 (『ヨハネによる福音書』9章による)
- (2)マギの物語
- (3)バルナバの物語

上記3案のなかでケーペル=キュアがもっとも強く推薦してきたのが(1)で、エルガーもこれに

³18世紀に起源をもつイギリスの合唱音楽祭で、毎年、ヘレフォード Hereford、グロースター Gloucester、ウスター Worcester の3つの都市の大聖堂を順番に交代で会場にしながら開催されてきた。

⁴Robert Anderson and Jerrold Northrop Moore, *Elgar Complete Edition: The Light of Life* (London: Novello, 1989), p. v.

同意し、『ヨハネによる福音書』にもとづく(1)の内容の歌詞が《キリストの光 Lux Christi》という題のもとに用意されることになった。

ケーペル=キュアのまとめた歌詞は、欽定訳 Authorized Version (ジェームズ王訳 King James Version) の英語聖書を基本としながら、次のように手が加えられたものだった。(1)音楽作品として仕上げたときに効果をあげるように欽定訳聖書の文言を一部改変し、(2)福音書の物語をさらに立体化するために詩編など他の聖句を加え、(3)さらに劇的な効果をあげるために自由詩を創作して加える。さらに全体として聞いたときに、聖句を中心に構成した部分と、自由詩による注釈的な内容の部分とが、交互にあらわれるようになっているのも特徴である。このような歌詞の構成方法はケーペル=キュアによって考えられたものだが、のちにエルガー自信がオラトリオの歌詞を編集するようになったときも使われることになった。(なお《使徒たち》では、エルガーは今度は自分自身で歌詞を用意することになる)。

作曲の経緯

1890年代にエルガーは夏の休暇を利用して何度もドイツを訪れている。ヴァーグナーの楽劇を観るのもドイツ訪問の重要な目的だった⁵⁾。ケーペル=キュアによる歌詞の原稿が完成した1895年の夏も、エルガーはドイツにおり、バイエルン地方で休暇を過ごしていた。歌詞原稿はさっそくドイツ滞在中のエルガーのもとに送られる。それを受け取ったエルガーはただちに作曲のスケッチを開始した。初演までに作曲家が与えられた時間は約1年間だった。

歌詞の原稿を受け取った当時、エルガーはもうひとつの大作《オラフ王のサガからの情景 Scenes from the Saga of King Olaf》作品30の創作にもすでにとりかかっており、この作品と《命の光》の作曲は同時に並行するようにしてすすめられた。さらに合唱曲《バイエルンの高地より From the Bavarian Highlands》作品27のスコアの仕上げも同時期に並行して行われており、きわめて多忙なスケジュールのなかでの作曲だった。

作曲と並行して、出版社との交渉もすすめられた。交渉はロンドンの出版社ノヴェッロ

⁵⁾1892年にバイロイトを訪れたエルガーは、《ニュルンベルクのマイスタージンガー》《トリスタンとイゾルデ》のほか、《パルジファル》を2回みている。翌1893年にもバイロイトを訪れ、このときは《ニーベルングの指輪》《タンホイザー》《トリスタンとイゾルデ》をみた。さらに翌年の1894年もバイロイトを訪れ、このときは《神々のたそがれ》《ニュルンベルクのマイスタージンガー》をみている。さらに1902年にもまたエルガーはバイロイトに詣でて、《ニーベルングの指輪》の最初の3作《ラインの黄金》《ヴァルキューレ》《ジークフリート》と、《パルジファル》をみている。これらの観劇に先立ってエルガーはヴァーグナーのスコアの研究もおこなっており、こうしたヴァーグナー研究がこの時期に作曲されたエルガーのオラトリオに色濃く影響を及ぼすことになる。

Novello とのあいだで行われ、1896 年春に《命の光》のヴォーカル・スコアをノヴェッロから出版することが決定、1896 年 4 月 6 日には完成されたヴォーカル・スコア用の楽譜原稿がノヴェッロ宛に郵送された⁶

出版社との交渉、曲名の決定

このとき楽譜原稿とともにノヴェッロに送られた手紙のなかに、次の内容が記されていることが注目される：(1)出版社からのアドバイスどおりに 1 時間以内の演奏時間で上演可能な作品として仕上げた、(2)この作品のジャンル名を「宗教的カンタータ Sacred Cantata」とすべきか「小オラトリオ Short Oratorio」とすべきか迷っている⁷。つまり、作品の演奏時間を 1 時間以内にするということは、出版社の希望であったことがわかる。また曲のジャンルに関しては、エルガー自身、それをオラトリオとよんでいいのかカンタータとよんでいいのか迷っていたようだ。「小オラトリオ Short Oratorio」という表現から、エルガーはこの作品をオラトリオとよぶにはコンパクトにまとまりすぎていると考えていたようである。

作曲時のエルガーは、この作品に《キリストの光 Lux Christi》というラテン語の曲名をつけるつもりだった。しかしこのラテン語の曲名については、ローマ・カトリック的な印象を強く与えないように英語の曲名に変更することが出版社との打ち合わせのなかで検討され、最終的に出版社が提案した《命の光 The Light of Life》という英語曲名を採用することで最終合意に達した⁸。ラテン語はカトリック教会の典礼でつかわれていた言葉で、カトリック教会の信徒だったエルガーにとっては自身の信仰と直接に結びついた言葉だった。しかし英国国教会の勢力が圧倒的に強い当時のイギリスでは、カトリック教会への差別が依然存在。1829 年のカトリック解放法 Catholic Emancipation Act によってカトリック信徒の政治的・社会的な権利の回復へのきざしが見られるようになっていたものの、やはりこのような形で曲名を変えることになった。

初演

ヴォーカル・スコアの完成後、エルガーは 1896 年 5 月 5 日にフル・スコアの作成に着手した。その後約 1 ヶ月半の時間を費やして、6 月 20 日には総譜を完成、同月末から早速初演に

⁶Anderson and Moore, *op. cit.*, p. vi.

⁷*Ibid.*

⁸*Ibid.*

向けての練習が始まった。初演は 1896 年 9 月 8 日にウスター大聖堂で、作曲者自身の指揮によって行われた。当日は演奏会の第 1 部としてエルガーの《命の光》が演奏され、つづく第 2 部ではヘンデルのオラトリオ《サムソン》からの抜粋が演奏された⁹。

演奏にあたって必要とする演奏者の編成は以下のとおり：フルート 2 (ピッコロ持ち替え 1)、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、コントラファゴット、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 3、バス・チューバ 1、打楽器、ハープ、パイプオルガン、弦 5 部、独唱、合唱。このうち独唱は、次のように割り振られる：ソプラノ＝目の見えない男の母親、コントラルト＝語り手、テノール＝目の見えない男、バリトン＝イエス。このうち、語り手（＝福音記者）に女声が起用されている点が特徴的である。また合唱は群衆の声を表現するだけでなく、J. S. バッハの宗教合唱作品におけるコラールのような、共同体の視点からの信仰告白的な役目も担当する。

フル・スコアの印刷譜は、初演から 10 年あまりたった後、1908 年 1 月 28 日に刊行された。

*以下のページの歌詞対訳を作成するにあたり、英文テキストの定本は Novello の全集版 (Elgar Complete Edition, *The Light of Life/Lux Christi: a Short Oratorio*, London and Sevenoaks: Novello, 1989) を用いた。

⁹*Ibid.*

エルガー：オラトリオ《命の光（キリストの光）》作品 29

Edward Elgar, *The Light of Life (Lux Christi)*, opus 29

詞：Edward Capel-Cure

歌詞対訳：秋岡 陽¹⁰

No.1 MEDITATION (Orchestra)

No.2 CHORUS and SOLO

CHORUS (LEVITE: *within the Temple Courts*)

Seek Him that maketh the seven stars and Orion¹¹,
and turneth the shadow of death into the morning,
and maketh the day dark with night.

The Lord is His Name.

O give thanks unto the Lord¹²,
for His mercy endureth for ever.

Who hath made great lights¹³,
for His mercy endureth for ever.

The sun to rule the day, the moon and stars to
govern the night,
for His mercy endureth for ever

THE BLIND MAN (Tenor Solo: *outside the Temple*)

O Thou, in Heaven's dome¹⁴,
In Light's eternal home,
For whom the cloud
Of night's endowed
With splendour like the sun:
To me the day and night are equal:
both are night.
O God! I pray for light.

CHORUS

Seek Him *etc.*

1. 瞑想（オーケストラ）

2. 合唱と独唱

（レビ人の合唱：神殿の中庭で）

主を求めよ——昴（すばる）とオリオンを造り、
死の闇を朝に変え、
昼を闇夜になさる方——

その方の御名こそ「主」。

主に感謝せよ

——主の慈しみはとこしえに。

大いなる光を造られた方に感謝せよ

——主の慈しみはとこしえに。

昼をつかさどる太陽と、夜をつかさどる月と星を
造られた方に感謝せよ

——主の慈しみはとこしえに。

目の見えない男（テノール独唱——神殿の外で）

ああ主よ、天空の、
光輝く永遠の住処におられる主よ、

あなたの前では

夜の雲さえもが

太陽のような輝きを与えられるという。

しかし私にとっては、昼も夜も、

すべてが、みな闇。

ああ、神よ！ 私は光を求め、祈ります。

合唱

主を求めよ……。

¹⁰この歌詞対訳は、2010年10月30日に行われた東京交響楽団・大友直人プロデュース東京芸術劇場シリーズ第106回演奏会のために用意したものをもとに、今回あらたに改訂を加えたものである。

¹¹以下の4行は欽定訳聖書 King James Version（以下 KJV と略記）の旧約聖書『アモス書』5:8 による（以下の聖書原文から一部を抜粋）：Seek him that maketh the seven stars and Orion, and turneth the shadow of death into the morning, and maketh the day dark with night: that calleth for the waters of the sea, and poureth them out upon the face of the earth: The LORD is his name.

¹²以下の2行は KJV 『歴代誌・上』16:34、ならびに『詩編』136:1 による（以下の聖書原文から一部を抜粋）：O give thanks unto the LORD; for he is good: for his mercy endureth for ever.

¹³以下の5行は KJV 『詩編』136:7-9 による（以下の聖書原文を自由に編集）：[7]To him that made great lights: for his mercy endureth for ever:[8]The sun to rule by day: for his mercy endureth for ever:[9]The moon and stars to rule by night: for his mercy endureth for ever.

¹⁴以下のテノールの独白のテキストは、聖句からの直接引用によらず、自由詩による。

TENOR

All, all is dark to me:
I lose my way to Thee;
I cannot prove
Thy truth and love;
Lord, grant that I may see.
Oh, hateful is the night
Which hides Thee from my sight:
O God! I pray for light.

CHORUS

Seek Him *etc.*

No.3 RECIT. and CHORUS

CONTRALTO (NARRATOR)

As Jesus passed by¹⁵,
He saw a man who was blind from his birth,
and His disciples asked Him, saying:

[Chorus of Disciples]¹⁶

Who did sin, this man, or his parents,
that he was born blind?
Behold, God will not cast away a perfect man¹⁷,
neither will He help the evil doers:
Therefore darkness is round him
that he cannot see.

No.4 SOLO

SOPRANO (MOTHER of the BLIND MAN)

Be not extreme, O Lord, to mark amiss¹⁸
Those secret sins I know, yet scarce I know;
For man or angel, who may face the Judge
That asks a whiteness, whiter than the snow?

Is this my sin's reward? O Lord, too much!
Too great a load of sorrow for my strength!
Oh, cruel in Thy power, if Thou hast made
My child a sacrifice for my offence!

Can it be true, O Lord, that Thou hast brought
Upon a mother's heart to love and yet to hate

テノール

いつも闇の中にいる私は、
主のもとへ歩む道も見失い、
あなたの真理とあなたの愛を
確かめることもできません。
主よ、たとえ私がこの目で見ようとしても、
ああ、いまわしい夜の闇が、
あなたの姿を、私の前から隠してしまうのです。
ああ、神よ！ 私は光を求め、祈ります。

合唱

主を求めよ……

3. レチタティーヴォと合唱

コントラルト（語り手）

イエスが歩いて行くと、そこに
生まれつき目の見えない人がいるのを見かけた。
すると弟子たちはイエスにこう尋ねた：

[弟子たち]

この人が生まれつき目が見えないのは、だれの罪の
ためですか？ 本人ですか。それとも、両親ですか。
神は、無垢な人を退けるわけがありません。
神が、悪を行う者を助けないと同じです。
ところがこの人は闇に包まれ、
目が見えなくなっている。

4. 独唱

ソプラノ（目の見えない男の母親）

主よ、なぜそこまでなさるのですか。
私の内の秘められた罪は、小さな罪にすぎません。
人であれ天使であれ、裁きのそのときに、
雪より白い潔白をだれが主張できるでしょう。

私の罪のためですか？ 主よ、それはあまりです！
私には背負いきれない、大きすぎる悲しみです。
私の罪のせいで、私の息子が犠牲になるとは、
あなたの力はなんと非情なのでしょう！

主よ、あなたは、ひとりの母親の心に、子を愛する
気持ちと憎む気持ちを、同時に与えるのですか？

¹⁵以下の5行は、KJV『ヨハネによる福音書』9:1-2による（以下の聖書原文から一部を省略）：And as Jesus passed by, he saw a man which was blind from his birth. And his disciples asked him, saying, Master, who did sin, this man, or his parents, that he was born blind?

¹⁶エルガー全集の楽譜（Elgar Complete Edition, ser.1, vol.3 [London: Novello, 1989]）では「Chorus of Disciples」の指示はない。

¹⁷以下の2行は、KJV『ヨブ記』8:20による：Behold, God will not cast away a perfect man, neither will he help the evil doers.

¹⁸以下の母親の独白のテキストは、聖句からの直接引用によらず、自由詩による。ただし、詩編から引用された以下の語句を含む：“whiter than snow”（詩編 51:7）、“lighten mine eyes”（詩編 13:3）。

Her child, her sin's own signature, a gift
Not given in love but as the sinner's fate?

It is not so! Who tell it me blaspheme,
And blinder than my own blind child are they;
And blind am I. Lighten mine eyes, O Lord,
That I may learn Thy love's mysterious way.

No.5 SOLO

BARITONE (JESUS)

Neither hath this man sinned¹⁹,
nor did his parents,
but that the work of God should be made
manifest in him.

I must work the works of Him that sent Me,
while it is day:
the night cometh when no man can work.
As long as I am in the world, I am the
Light of the World:
He that followeth Me shall not walk in darkness²⁰,
but shall have the light of life.

No.6 CHORUS

Light out of darkness Thou hast brought!²¹
Within the shadow of Thy Cross
Now burns a light, and we are taught
The truer truths of human loss.

Wast Thou a sinner? Thou hast borne
The sinner's sentence and his shame;
Thy side was pierced, Thy forehead torn,
Thy sad heart broken by our blame.

But so a beacon light Thou sent
To signal thro' our night of grief;
How Love upon His mission went
Crowned with sorrow's sharp-set wreath.

Enough it was we needed Thee,
Our misery alone did pray,

その子を、母親の罪のしるしとして与え、愛の賜物として
ではなく、罪人へのさだめとして与えるのですか？

そのようなことはないはず！ そんなことを言う人は、
私の息子よりも物事が見えない、神を冒瀆する者。
閉ざされた私の目にも、光を与えてください！ 主よ、
そうすれば私もあなたの愛の不思議を知りましょう。

5. 独唱

バリトン (イエス)

この人が見えないのは、本人が罪を犯したからでも、
両親が罪を犯したからでもない。
それは、神の業（わざ）がこの人に
現れるためである。

私をお遣わしになった方の業を、
まだ日のあるうちに行わなければならない。
だれも働くことのできない夜が来る。
私は、世にいる間、
世の光である。
私に従う者は暗闇の中を歩かず、
命の光をもつ。

6. 合唱

光を、闇から、主がひきだしてくださいます！
主の十字架のもとで、
今また光が輝き、私たちは知るので——
人間が失ったものの真の意味を。

主よ、あなたは罪人ではありません。なのに、
あなたは人間の罪の身代わりになったのです。
あなたは脇腹を刺され、額から血を流し、
その悲しみの心は、私たちのために砕かれました。

それでも神は、ひとつの灯を世に送り、
私たちの悲しみの夜を照らそうとなさったのです。
愛ゆえに遣わされたその御子が、なんと
悲しみの茨の冠をかぶられるとは。

あれほど主を待ち望んでいた私たちなのに、
ひたすら窮乏のなかで祈り続けたのに、

¹⁹以下の9行はKJV『ヨハネによる福音書』9:3-5による。なお、最後の1行 "As long as I am in the world, I am the Light of the World." のなかの "Light of the World" の句は、『ヨハネによる福音書』8:12にも出てくる表現で、この表現を pivot として、歌詞テキストでは続けて8:12からも引用が行われる。

²⁰この上の行に出てきた "Light of the World" は『ヨハネによる福音書』9:5として出てきたが、しかし同じ句が同書8:12にも出てくる。以下の2行は以下のようなKJV『ヨハネによる福音書』8:12を用いて、さらに歌詞の追加が行われる：I am the light of the world: he that followeth me shall not walk in darkness, but shall have the light of life.

²¹以下の合唱のテキストは、聖句からの直接引用によらず、自由詩による。ただし、聖句を想起させる以下の語句を含む："light ... out of darkness" (2コリント4:6)。

And Mercy answer'd eagerly,
And trod for us steep Calvary's way.

So let us answer sorrow's cry!
The past is dead: search not its grave
For hidden faults! the remedy
Is ours to seek, to find and save.

No.7 RECIT.

CONTRALTO (NARRATOR)
And when He had thus spoken, He made clay²²
from the ground, and anointed the eyes of the
blind man with the clay, and said unto him:

BARITONE (JESUS)
Go, wash in the pool of Siloam.

No.8 CHORUS

(Soprano and Contralto)
Doubt not thy Father's care!²³
For ev'ry grief
He finds relief,
And answers ev'ry prayer.

Night comes: the sun is lost;
He doth provide
In the Heavens wide
The gleam of a starry host.

Night comes: the soul is dark;
All joy is dead,
All gladness fled,
And life has miss'd its mark.

Then Thou—the wounded soul,
In that sad hour,
With healing power
Dost touch, and makest whole.

No.9 SOLO and CHORUS

CONTRALTO (NARRATOR)
He went his way therefore, and washed²⁴,

救いの手がさしのべられると、それを
ゴルゴタの丘への険しい道に、追い立てたのです。

その悲しみの叫びに、今こたえましょう！
過去は葬られました：墓に封印されたその過ちに
戻ることなく、新たな救いを私たちは求め、
みつけ、そして守ってゆきましょう。

7. レチタティーヴォ コントラルト（語り手）

イエスは、語り終わると、地面の土をこね、
目の見えない人の目にお塗りになった。
そして次のように言われた：

バリトン（イエス）
シロアムの池に行って洗いなさい。

8. 合唱 （ソプラノとコントラルト）

父なる神の慈しみを信じなさい！
すべての悲しみを
その方は和らげ、
すべての祈りにこたえてくださいます。

夜が来て、太陽が隠れても、
その方は、
空一面に、
たくさんの星を輝かせてくださいます。

夜が来て、魂が闇におおわれ、
すべての欲びが絶え、
すべての喜びが失われ、
生きるすべを見失いそうになったとき、

そのとき、主は、傷ついた魂に、
悲しみのなかにある魂に、
癒しの力をもつその御手で
そっと触れて、生き返らせてくださるのです。

9. 独唱と合唱 コントラルト（語り手）

そこで、彼は行って洗い、

²²以下の4行はKJV『ヨハネによる福音書』9:6-7による（以下の聖書原文から一部を省略）：When he had thus spoken, he spat on the ground, and made clay of the spittle, and he anointed the eyes of the blind man with the clay, and said unto him, Go, wash in the pool of Siloam, (which is by interpretation, Sent)

²³以下の合唱のテキストは、聖句からの直接引用によらず、自由詩による。

²⁴以下の10行はKJV『ヨハネによる福音書』9:7-10による（以下の聖書原文から一部を省略）：[7]He went his way therefore, and washed, and came seeing.[8]The neighbours therefore, and they which before had seen him that he was blind, said, Is not this he that sat and begged? [9]Some said, This is he: others said, He is like him: but he said, I am he.[10]Therefore said they unto him, How were thine eyes opened?

and came seeing:
the neighbours therefore and they which before
had seen him that he was blind, said:

CHORUS

Is not this he that sat and begged?
Have we not seen him before
that he was born blind?

CHORUS (*Soprano and Alto*)

He is like him.

TENOR SOLO (*THE MAN THAT WAS BLIND*)

I am he.

CHORUS (*Tenor and Bass*)

How were thine eyes opened?

CHORUS²⁵

Since the world began was it not heard that any²⁶
man opened the eyes of one that was born blind.

TENOR SOLO

A man that is called Jesus made clay²⁷,
and anointed mine eyes, and said unto me,
Go to the pool of Siloam, and wash:
I went and washed, and I received sight.

CHORUS

Where is He?

He has done a marvellous work and a wonder²⁸:
The wisdom of their wise men shall perish, and
the eyes of the blind shall see out of darkness.

Where is He?

目が見えるようになって、帰って来た。
近所の人々や、彼の目が見えなかったことを
以前から知っていた人々は、口々にこう言った：

合唱

これは、座って物乞いをしていた人ではないか？
彼の目が見えなかったことを
我々は知っていたではないか？

合唱（ソプラノとアルト）

この男は彼に似ているだけだ。

テノール独唱（かつて目の見えなかった男）

いいえ、私とその男なのです。

合唱（テノールとバス）

では、お前の目はどのようにして開いたのか？

合唱

生まれつき目の見えない者の目を開けた人の話など、
これまで一度も聞いたことがない。

テノール（独唱）

イエスという方が、土をこねて
私の目に塗り、こう言いました：
「シロアムに行って洗いなさい」と。
そこで、行って洗ったら、見えるようになったのです。

合唱

その人はどこにいるのか？

その人は驚くべき業（わざ）をなし、人々を驚かせた。
賢者の知恵は滅び、
盲人の目は開かれ、闇から解かれた。

その人はどこにいるのか？

²⁵ 2群（女声←→男声）に分かれて歌いかわしていた合唱が、ここでいっしょになる。

²⁶以下の2行はKJV『ヨハネによる福音書』9:32による。この前後の部分が、同じ『ヨハネによる福音書』の9章10-11であるのに対し、この2行だけが離れた箇所から採用されており、物語の流れが補強されている。

²⁷以下の5行はKJV『ヨハネによる福音書』9:11-12による（以下の聖書原文から一部を省略）：[11]He answered and said, A man that is called Jesus made clay, and anointed mine eyes, and said unto me, Go to the pool of Siloam, and wash: and I went and washed, and I received sight.[12]Then said they unto him, Where is he? He said, I know not.

²⁸以下の3行はKJV『イザヤ書』29:14、ならびに同書29:18による（以下の聖書原文から抜粋して再編集している）：[14]Therefore, behold, I will proceed to do a marvellous work among this people, even a marvellous work and a wonder: for the wisdom of their wise men shall perish, and the understanding of their prudent men shall be hid./// [18]And in that day shall the deaf hear the words of the book, and the eyes of the blind shall see out of obscurity, and out of darkness.なお、この3行を挟む前後の部分が新約聖書の『ヨハネによる福音書』9章によるのに対し、あいだに挟まれたこの3行だけが旧約聖書の『イザヤ書』によっている。

TENOR SOLO

I know not²⁹.

No.10 SOLO

TENOR SOLO

As a spirit didst Thou pass before mine eyes,^{—30}
I saw Thee not, but heard Thy voice, “Arise,
Go, wash,” —and greatly wond’ring I obeyed
And washed the seal of clay Thy hand had laid
Upon my brow: and, as it melted, oh! no more
The world was shrouded in the night! I saw!

O Jesu! But Thy name is all I know,
Where may I hope to find Thee? I would throw
Myself and all I am before Thy feet,
And Thee for evermore as Master greet.
O sight more precious than my aching heart
E'er dreamt, to see Thee, Jesu, who Thou art.

But more than this Thou canst!
Who doubts Thy power
Can other waters with new virtue dower?
For hast not God sealed up our souls in clay
That they are blind to Heaven's eternal day?
Now, Death, I fear thee not! When I have trod
Thine icy flood, Lo! I shall see my God!

No.11 RECIT. and CHORUS

CONTRALTO (NARRATOR)

They brought him to the Pharisees,³²
and it was the Sabbath day
when Jesus opened his eyes.

CHORUS (PHARISEES: Tenor and Bass)

This man is not of God³³,
because He keepeth not the Sabbath.

The Lord spake unto Moses³⁴,

テノール (独唱)

その人がどこにいるのか、私は知りません。

10. 独唱

テノール独唱

霊の息吹のように、主は私の目の前を過ぎて行きました。
主の姿は見えなくとも、その声は聞こえました。
「立って行き、洗いなさい」というお言葉に、私は
何もわからぬまま従い、額に塗られた土を洗うと、
土は溶け、なんと、闇に閉ざされていた世界が
開かれたのです。そうです、私は見えたのです!

ああ、イエズス³¹さま! 私はそのお名前しか知りません。
私はどこに行ったら、あなたに会えるでしょう?
私は自分のすべてを、あなたの足元にさしだし、
あなたをいつまでも師として仰ぎましょう。
目が見えるようになった今、かつて心だけで思いこがれた
ときよりも、もっと私は、イエズスさまにお会いしたい。

しかしあなたがなさるのは、それだけではありません!
あなたの力は、いろいろな所で
新しい意味を与えてくださいます。
神が私たちの魂を土で塗り固めても、天国における
永遠の日に目を閉ざさせることがあるのでしょうか?
私は死をも恐れませんが、私が死への凍てつく道を
歩むときも、そうです、私は神にまみえるのです!

11. レチタティーヴォと合唱

コントラルト (語り手)

人々は、かつて目の見えなかった男を、ファリサイ派の人々
のもとへ連れていった。というのも、イエスとその男の
目を開けたのが、安息日だったからである。

合唱 (ファリサイ派の人々: テノールとバス)

その男 (イエス) は、神のもとから来た者ではない。
なぜなら、彼は、安息日を守らないから。

主はモーセにこう語られたではないか:

²⁹この1行はKJV『ヨハネによる福音書』9:12による。

³⁰以下のテノール独唱(6行×3節)のテキストは、聖句からの直接引用によらず、自由詩による。

³¹この1節でのみ「Jesus」のかわりに「Jesu」というカトリック的な呼びかけの表現が用いられている。訳出にあたっては「イエズス」という訳語を使用することによって区別した。

³²以下の3行はKJV『ヨハネによる福音書』9:13-14による(以下の聖書原文から一部を省略): [13]They brought to the Pharisees him that aforetime was blind. [14]And it was the sabbath day when Jesus made the clay, and opened his eyes.

³³以下の2行はKJV『ヨハネによる福音書』9:16による(以下の聖書原文から抜粋): [16]Therefore said some of the Pharisees, This man is not of God, because he keepeth not the sabbath day. Others said, How can a man that is a sinner do such miracles? And there was a division among them.

³⁴以下の6行はKJV『出エジプト記』31:13-14による(以下の聖書原文から抜粋して再編集): [13] Speak thou

“Verily My Sabbaths ye shall keep,
for it is a sign between Me and you
throughout your generations:
every one that defileth it
shall surely be put to death.”

CHORUS (Soprano and Alto)

How can a man that is a sinner³⁵
do such a miracle?
Can a devil open the eyes of the blind?³⁶
They shall cry unto the Lord³⁷,
but there shall be none to help them³⁸.

CHORUS (Tenor and Bass)

He is a sinner.³⁹

CHORUS (Soprano and Alto)

He is of God.

CHORUS (Tutti)

What sayest thou of Him⁴⁰,
that He hath opened thine eyes?

TENOR (THE MAN THAT WAS BLIND)

He is a prophet.

No.12 SOLO

CONTRALTO SOLO

Thou only hast the words of life!⁴¹
Be prophet to my heart, O Lord:
Thy servant heareth, though the world
With babel cries disclaims Thy Word.

「あなたたちは、私の安息日を守らなければならない。
それは、代々にわたって
私とあなたたちの間のしるしである。
それを汚す者は、
必ず死刑に処せられる」と。

合唱（ソプラノとアルト）

しかしその人が罪ある人間なら、
なぜこのような奇跡を行えるのか？
悪霊が盲人の目を開けられるというのか？
たとえ悪い者がどんなに主に向かって叫ぼうとも、
けっして助けるはずがないではないか。

合唱（テノールとバス）

いや、彼は罪ある人間だ。

合唱（ソプラノとアルト）

いや、彼は、神のもとから来た方だ。

合唱（一同）

いったい、お前は、あの人をどう思うのか？
お前の目を開けてくれたという、あの人を。

テノール（かつて目の見えなかった男）

あの方は預言者です。

12. 独唱

コントラルト独唱

主よ、あなただけが、命の言葉を語られる方！
預言者となり、私の心に語りかけてください、主よ。
あなたのしもべは耳を傾けます。たとえこの世の
喧騒かまびすしく、あなたの御言葉をかき消そうとも。

also unto the children of Israel, saying, Verily my sabbaths ye shall keep: for it is a sign between me and you throughout your generations; that ye may know that I am the LORD that doth sanctify you. [4] Ye shall keep the sabbath therefore; for it is holy unto you: every one that defileth it shall surely be put to death: for whosoever doeth any work therein, that soul shall be cut off from among his people. なお、この6行を挟む前後の部分が新約聖書の『ヨハネによる福音書』9:16によるのに対し、あいだに挟まれたこの6行だけが旧約聖書の『出エジプト記』によっている。

³⁵以下の2行は KJV 『ヨハネによる福音書』9:16 による（聖書原文のどの箇所が引用されたかについては、前掲の注 33 参照）。

³⁶この1行は KJV 『ヨハネによる福音書』10:21 による：[21] Others said, These are not the words of him that hath a devil. Can a devil open the eyes of the blind?

³⁷この1行は KJV 『イザヤ書』19:20 による（以下の聖書原文から抜粋）：[20] And it shall be for a sign and for a witness unto the LORD of hosts in the land of Egypt: for they shall cry unto the LORD because of the oppressors, and he shall send them a saviour, and a great one, and he shall deliver them.)

³⁸この1行については、KJV 『ヨブ記』『詩編』『イザヤ書』などに類似表現が多数みられる。

³⁹以下の2行は、すでに引用された聖書箇所をの語句を用い、問答形式に整えなおしたもの。

⁴⁰以下の3行は KJV 『ヨハネによる福音書』9:17 による（以下の聖書原文から一部を省略）：[17] They say unto the blind man again, What sayest thou of him, that he hath opened thine eyes? He said, He is a prophet.

⁴¹以下の独唱のテキストは、聖句からの直接引用によらず、自由詩による。

As Thou didst Mammon and the market drive
Beyond the Temple's holy ground,
So make a silence in my soul,
Where only Thy true voice shall sound.

主よ、あなたは、神殿の聖域に巢食って富を
たくわえ商売する者を、追い出されました。
同じように、私の心のなかにも静寂を取りかえし、
あなたの真実の声だけが響く場所としてください。

No.13 RECIT.

CONTRALTO (NARRATOR)

But the Jews did not believe concerning him⁴²
that he had been blind,
until they asked his parents,
and his parents answered them, and said:

13. レチタティーヴォ

コントラルト (語り手)

しかしユダヤ人たちは、この男が
かつて目が見えなかったことを信じなかった。
そこでついに、この男の親を呼び出して、尋ねると、
親は答えて、こう言った：

SOPRANO (THE MOTHER)

We know that this is our son,
and that he was born blind:
But by what means he now seeth,
we know not: he is of age; ask him:
he shall speak for himself.

ソプラノ (母親)

これが私どもの息子で、
生まれつき目が見えなかったことは存じております。
しかし、どうして今、目が見えるようになったのかは、
分かりません。彼ももう大人ですから、本人に聞いてください
自分のことは自分で話すでしょう。

CONTRALTO (NARRATOR)

Then again called they the man that was blind,⁴³
and said unto him:

コントラルト (語り手)

そこで、ユダヤ人たちは、盲人だった男をもう一度呼び出し、
こう言った：

CHORUS (Tenor and Bass)

Give God the praise, we know that this man is a
sinner.

合唱 (テノールとバス)

神の前で正直に答えなさい。私たちは、あの者(イエス)が
罪ある人間であることを知っているのだ。

TENOR (THE MAN THAT WAS BLIND)

Whether He be a sinner or no, I know not:
one thing I know, that,
whereas I was blind, now I see.

テノール (かつて目の見えなかった男)

あの方が罪人かどうか、私には分かりません。
ただ一つ分かっているのは、
目の見えなかった私が、今は見えるということです。

CHORUS (Tenor and Bass)

We know that God spake unto Moses⁴⁴,

合唱 (テノールとバス)

我々は、神がモーセに語られたことは知っているが、

⁴²以下の9行は KJV 『ヨハネによる福音書』9:18-21 による (以下の聖書原文から一部を省略) : [18] But the Jews did not believe concerning him, that he had been blind, and received his sight, until they called the parents of him that had received his sight. [19] And they asked them, saying, Is this your son, who ye say was born blind? how then doth he now see? [20] His parents answered them and said, We know that this is our son, and that he was born blind: [21] But by what means he now seeth, we know not; or who hath opened his eyes, we know not: he is of age; ask him: he shall speak for himself. なお、聖書原文に存在する次の説明文章は、歌詞のほうでは完全に省略された : 「 [22] These words spake his parents, because they feared the Jews: for the Jews had agreed already, that if any man did confess that he was Christ, he should be put out of the synagogue. (両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れていたからである。ユダヤ人たちは既に、イエスをメシアであると公に言い表す者がいれば、会堂から追放すると決めていたのである。)」

⁴³以下の7行は KJV 『ヨハネによる福音書』9:24-25 による (以下の聖書原文から一部を省略し、また対話として立体性をもたせるために文体の改変を行っている) : [24] Then again called they the man that was blind, and said unto him, Give God the praise: we know that this man is a sinner. [25] He answered and said, Whether he be a sinner or no, I know not: one thing I know, that, whereas I was blind, now I see. なお、このあとの9:26-28 は作曲されていない。ここで、モーセに言及した箇所が作曲されなかったため、このあと作曲された部分で突然モーセの話がでてくる唐突な印象を生じる結果になった。

⁴⁴以下の13行は KJV 『ヨハネによる福音書』9:29-34 による (以下の聖書原文から一部を省略し、また対話

as for this fellow, we know not whence He is.

あの者がどこから来たのかは知らない。

TENOR (THE MAN THAT WAS BLIND)

Why herein is a marvellous thing,
that ye know not from whence He is,
and yet He hath opened mine eyes.
Now we know that God heareth not sinners;
but if any man be a worshipper of God,
him He heareth.
If this man were not of God,
He could do nothing.

テノール (かつて目の見えなかった男)

あの方がどこから来られたのかお分かりにならないとは、実に不思議です。
あの方が、私の目を開けてくださったというのに。
ご存知のとおり、神は罪人の言うことは聞きいれませんが、
しかし、神の御心に適う人の言うことは、
お聞きになります。
あの方が神のもとから来られた方でなければ、
このような業(わざ)は、できなかったはずですよ。

CHORUS (Tenor and Bass)

Thou wast altogether born in sins,
and dost thou teach us?
We cast you out!

合唱 (テノールとバス)

お前は全くの罪の中に生まれたというのに、
我々に向かって教えを垂れようというのか?
お前など追い出してやる!

No.14 SOLO and CHORUS of WOMEN

*SOPRANO (THE MOTHER) and
CHORUS of WEMEN*

Woe to the shepherds of the flock⁴⁵,
Ye have not healed that which was sick;
Ye have not sought that which was lost.

14. 独唱と女たちの合唱

ソプラノ (母親) と女たちの合唱

災いだ、群れを養うはずの牧者たちが
病んだ羊を癒すこともせず、
迷い出た羊を探すこともしないとは。

Therefore, ye shepherds,
hear ye the word of the Lord.
I will require My flock at your hands⁴⁶,
I will seek out My sheep,
And will deliver them out of all places
Where they have been scatter'd
in the cloudy and dark day.
I will feed them in a good pasture,

牧者たちよ、
主の御言葉を聞くがよい：
「私は、私の群れをあなたたちの手にゆだねる。
私は、私の羊たちを探しだし、
雲と蜜雲(みつうん)の日に散らされた
すべての場所から、
その群れを救い出す。
私は、良い牧草地で彼らを養い、

として立体性をもたせるために文体の改変を行っている)：[29] We know that God spake unto Moses: as for this fellow, we know not from whence he is. [30] The man answered and said unto them, Why herein is a marvellous thing, that ye know not from whence he is, and yet he hath opened mine eyes. [31] Now we know that God heareth not sinners: but if any man be a worshipper of God, and doeth his will, him he heareth. [32] Since the world began was it not heard that any man opened the eyes of one that was born blind. [33] If this man were not of God, he could do nothing. [34] They answered and said unto him, Thou wast altogether born in sins, and dost thou teach us? And they cast him out.

⁴⁵以下の5行は、聖句からの直接引用によらず、自由詩による。

⁴⁶以下の8行は KJV 『エゼキエル書』 34:10-16 による (ただし、必要な部分だけをほんの数行選び出して使っており、その結果、34:11、34:13、34:15 は完全に省略されている)：[10] Thus saith the Lord GOD; Behold, I am against the shepherds; and I will require my flock at their hand, and cause them to cease from feeding the flock; neither shall the shepherds feed themselves any more; for I will deliver my flock from their mouth, that they may not be meat for them. [11] For thus saith the Lord GOD; Behold, I, even I, will both search my sheep, and seek them out. [12] As a shepherd seeketh out his flock in the day that he is among his sheep that are scattered; so will I seek out my sheep, and will deliver them out of all places where they have been scattered in the cloudy and dark day. [13] And I will bring them out from the people, and gather them from the countries, and will bring them to their own land, and feed them upon the mountains of Israel by the rivers, and in all the inhabited places of the country. [14] I will feed them in a good pasture, and upon the high mountains of Israel shall their fold be: there shall they lie in a good fold, and in a fat pasture shall they feed upon the mountains of Israel. [15] I will feed my flock, and I will cause them to lie down, saith the Lord GOD. [16] I will seek that which was lost, and bring again that which was driven away, and will bind up that which was broken, and will strengthen that which was sick: but I will destroy the fat and the strong; I will feed them with judgment.

I will seek out that which was lost,
And bring again that which was driven away.

私は、失われた羊を尋ね求め、
追われたものを連れ戻す」。

Woe to the shepherds of the flock,
Ye have not healed that which was sick;
Ye have not sought that which was lost.

災いだ、群れを養うはずの牧者たちが
病んだ羊を癒すこともせず、
迷い出た羊を探すこともしないとは。

No.15 RECIT.

CONTRALTO (NARRATOR)

Jesus heard that they had cast him out⁴⁷;
and when He had found him,
He said unto him:

15. レチタティーヴォ

コントラルト (語り手)

イエスは、男が外に追い出されたということをお聞きになった。そして彼に出会うと、こう言われた：

BARTONE (JESUS)

Thou hast both seen Him,
and it is He that talketh with thee.

バリトン (イエス)

あなたは、もうその人を見ている。
あなたと話しているのが、その人だ。

TENOR (THE MAN THAT WAS BLIND)

Lord, I believe.
(And he worshipped Him.)⁴⁸

テノール (かつて目の見えなかった男)

主よ、信じます。
(と言いながら、イエスを拝む)

BARTONE (JESUS)

I am the good Shepherd, and know My sheep⁴⁹,
and am known of Mine
I am come that they might have life,
and that they might have it more abundantly.
Holy Father, keep thro' Thine own Name
those whom Thou hast given Me.
Sanctify them thro' Thy truth:
Thy word is truth.
Father, I will that they be with Me, where I am,
that they may behold My glory,
Which Thou hast given Me.

バリトン (イエス)

私は良い羊飼いである。私は自分の羊を知っており、
羊も私を知っている。
私が来たのは、羊が命を受けるため、
しかも豊かに受けるためである。
聖なる父よ、あなたの御名によって、
私に与えられた者たちを守ってください。
真理によって、彼らを聖なる者としてください。
あなたの御言葉は真理です。
父よ、彼らを私のいる所に、共におらせてください。
それは、あなたが私に与えてくださった栄光を、
彼らも見ることです。

No.16 CHORUS

16. 合唱

⁴⁷以下の8行はKJV『ヨハネによる福音書』9:35-38による(以下の聖書原文から一部を省略し、また対話として立体性をもたせるために文体の改変を行っている): [35] Jesus heard that they had cast him out; and when he had found him, he said unto him, Dost thou believe on the Son of God? [36] He answered and said, Who is he, Lord, that I might believe on him? [37] And Jesus said unto him, Thou hast both seen him, and it is he that talketh with thee. [38] And he said, Lord, I believe. And he worshipped him.

⁴⁸楽譜に書き込まれたト書きによる。

⁴⁹以下の11行はイエスの言葉が集約的に語られる「名言集」の形をとっている。イエスの言葉はいずれもKJV『ヨハネによる福音書』から選ばれており、それらがパッチワーク状に組み合わされる。出典は以下の5箇所: (1)ヨハネ 10:14 ("I am the good shepherd, and know my sheep, and am known of mine."), (2)ヨハネ 10:10 ("The thief cometh not, but for to steal, and to kill, and to destroy: I am come that they might have life, and that they might have it more abundantly."), (3)ヨハネ 17:11 ("And now I am no more in the world, but these are in the world, and I come to thee. Holy Father, keep through thine own name those whom thou hast given me, that they may be one, as we are."), (4)ヨハネ 17:17 ("Sanctify them through thy truth: thy word is truth."), (5)ヨハネ 17:24 ("Father, I will that they also, whom thou hast given me, be with me where I am; that they may behold my glory, which thou hast given me: for thou lovedst me before the foundation of the world.").

Light of the World, we know Thy praise⁵⁰
The angels and archangels raise
And all the host of Heav'n;
More worthily than our faint hymns,
Whose jarring sound that glory dims,
Which God to Thee has giv'n.

But Thou didst not disdain to take
Our low estate, or e'en to make
The tomb Thy resting place;
So Thou might bring into our night
The dawn of Thine eternal Light
To shine upon our face.

Nor death, nor hell, nor sin, is Lord,
But Thou, O Son of God. Thy Word
Is now our sov'reign law.
Therefore we thank Thee, and we pray
Thy Light may shine unto the Perfect Day⁵¹
On us for evermore.

「世の光」である主よ！ あなたをたたえて、
天使たちと、大天使たちが声あげ、
さらに、天のすべての大軍が加わります。
たとえ人間の賛美の歌声が弱く、
調和を欠くその歌声では賛えきれずとも、天が声をあげ、
神から御子に与えられた栄光を、高らかにたたえます。

主は、へりくだって人間とともに住むことを
いとわず、さらに命まですてて
暗い墓に身を横たえられました。
その主が、夜の闇のなかにある私たちに、
暁のように、主の永遠の光を射し込ませ、
私たちの顔を照り輝かせてくださるのです。

死も、冥府も、罪も克服なさった主よ、
あなたこそ、神の子。あなたの御言葉こそ、
今を生きる私たちの、権威ある拠り所です。
私たちはあなたに感謝を捧げ、そして祈ります：
どうか、あなたの光が、真昼の輝きへと光を増し、
とこしえに私たちを照らしてくださいますように。

⁵⁰以下の合唱部分は、聖句からの直接引用によらず、自由詩による。

⁵¹perfect day という表現は、KJV『箴言』4:18に見られる。新共同訳聖書では「真昼の輝き」と訳している言葉。その背景にある聖句は、「神に従う人の道は輝き出る光／進むほどに光は増し、真昼の輝きとなる。But the path of the just is as the shining light, that shineth more and more unto the perfect day.」